

いのちを
育む!!

おだしま久美子 通信

公明党仙台市議団 青葉区国分町3丁目7-1 TEL 022-214-8718

Vol.80
2025 新年号



2025年も誰もが輝く社会実現に向けて

社会全体が一致団結し新たな未来をつくる。そのヒントが詰まった「公明党東北女性フォーラム」を振り返り、新年をスタートしたいと思います。

公明党東北女性フォーラム

～あなたとつくるダイバーシティ(多様性)～

会場250名・オンライン200名が参加



「誰もが対等で生きやすい社会を創る」ことを目的として開催。日本社会、そして東北で男女共同参画を進める処方箋はどのようなものかについて、皆様とお考えを共有しました。

庄子本部長は東北における女性活躍社会の実現を強調。「多様性に満ちた社会構築を目指す」との言葉もありました。被災地の女性活躍を実践する(株)気仙沼ニッティングの事例なども紹介されました。(株)クリーン&クリーン猪又明美社長からは、国内外の人材教育・確保事業や障がい者雇用の展開について紹介。NPOイコールネット仙台宗片恵美子常務理事からは、男女共同参画の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言がありました。

東北大学副学長
大隅典子 教授

基調講演

～多様性を尊重する社会づくりへ～

日本国内、各地域において、女性の力がいかに活用されていないか、少子化対策にのカギとしてどのようなことがあげられるかなどをデータに基づいて紹介。「例えば中学校長の女性比は7%。子どもはリーダーは男性という意識を強めて育つ」「男性の育児参加が長い家庭での第2子以降の出産率が増加する」…などと紹介されました。女性活躍、少子化対策が進まない背景に「無意識の偏見が根強く存在している」と大隅教授は訴えます。「日本の女性のポテンシャルは非常に高い。ただ、能あるタカが爪をずっと隠したまましていると、爪の出し方がわからなくなってしまう。アンコンシャスバイアスの払拭が必要」とのこと。多様性尊重社会実現のために、男女格差の解消を進めていく必要性を強調されていました。



佐々木さやか女性局長
(参院議員)



来賓/郡和子仙台市長

公明党 女性委員会

「すべての女性のためのトータルプラン」 実現に向けての提言

- 提言1 あらゆる分野でジェンダー平等を推進
- 提言2 生涯にわたる教育支援
- 提言3 女性の経済的自立支援
- 提言4 生涯にわたる健康支援
- 提言5 妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援

この提言によって女性特有の研究・治療をすすめる“女性の健康ナショナルセンター”が開設されることも紹介された



(株)気仙沼ニッティング
代表取締役 御手洗瑞子氏

おだしま久美子 公式サイト



Facebook



Twitter



LINE





【令和6年第4回定例会】

12月17日 一般質問▶



新しい認知症観の推進による施策の反映

小田島 小田島：国の認知症施策推進基本計画を踏まえた場合、強化拡充が必要な計画施策については、具体的にどのような対応が求められているのか。

市長 「新しい認知症観」の普及啓発、また認知症の方が活躍できる体制づくりなど、施策の充実に向けた方向性を掲げ、各般の施策に取り組んでいる。

新しい認知症観に関連するサイト▶



厚生労働省



MCI軽度認知障害への適切な情報提供

小田島 介護保険料決定通知書に認知症の気づきチェックリストや認知症疾患医療センターの案内、無料相談窓口の案内を同封するなどの取り組みは有効だと思われる。

健康福祉局長 MCIは認知症と健常の中間のような認知障害が見られる状態。生活習慣病予防等を行うことで、健常の状態に戻る可能性があると言われており、市民に早期の対策を促す取り組みが重要。本市では、仙台市医師会発行の冊子などで啓発しており、今後、全高齢者に送付する介護保険料決定通知書へ同封するなど、幅広い周知啓発に努める。

誰しもがなる可能性がある難聴高齢者への支援

小田島 難聴は、補聴器の利用でフレイルや認知症の予防に有効とされながら、補聴器の普及には課題が多い。他都市では助成が増えており、本市での検討を求める。

健康福祉局長 国の研究成果を待つことは第一としながら、他都市の情報収集も行い、並行して本市としてどういったことができるのか検討はしていきたい。

水道局による協定に基づいた高齢者見守り活動

小田島 水道局スマートメーター実証実験の状況は。また、協定に基づいた見守りの強化などについて。

健康福祉局長 スマートメーターは昨年6月から実証実験を行っているが、費用面の課題が多い。現状は、配送事業者等と協定を締結し、高齢者世帯の異変に気づいた際の通報に繋げている。今後、水道局との協定締結に向けて調整を進める。

教員の不適切指導の深刻な影響と不登校への対応

小田島 不適切な指導に関する相談が相次いで寄せられている。児童保護者からの申し出が半年以上放置され、身体への影響により通院に至った事例も。

令和2年度文科省不登校児童生徒の実態調査では、先生との関係が要因という回答30%となった。教師と生徒の関係を改善するためにどのような具体的な取り組みを進めるか。

教育長 体罰・不適切な指導防止ハンドブックに沿った対応が徹底されず、大きな課題であると厳しく受け止めている。教職員の姿や言動は児童生徒のお手本であり、大きな影響を与えることを改めて認識するよう、研修等を一層充実させるとともに、引き続き、相談体制の充実を図りながら、児童生徒が安心して学べる環境づくりを進める。

不登校の要因として教員が高い数値となっていることも承知している。学校生活の満足度に関するアンケート活用や児童生徒との関わり方についてのOJTを推進する他、気軽に相談できる学校風土の醸成に向けて引き続き取り組む。

体罰・不適切な指導防止への取り組み



チーム担任制で非常勤活用、教員多忙化と不足解消

小田島 スクールサポートスタッフ活用は、事例共有、校内マネジメントが必要と思われる。講師登録者数は今年度1129人で、任用数873人、77%。一部には、条件に適合しないため任用されない方もある。他都市で行われているチーム担任制は、教員不足が解消されただけでなく、職員室にも活気が戻ったという報告があるとのこと。複数教員による指導で、児童生徒の気持ちの切り換えにも繋がり、いじめや不登校の早期発見にも効果があるよう。

教育長 スクールサポートスタッフ活用は教員の負担軽減に資すると認識。マネジメントの在り方も検討する。講師登録者の中には学校のニーズと合致せず、任用に至らない方が一定数ある。改めて本人の意向を踏まえた勤務の提案を行うなど、マッチングに努めている。他の職種も含めて紹介するなど、工夫を凝らして参りたい。

他都市で行われるチーム担任制について、今年度、本市でも実施自治体の視察等を行い、効果を確認した一方、体制構築のための人員確保や教員間の情報共有などの課題も見られた。引き続き情報収集を行いながらメリットと課題を見極め、検討して参りたい。

小田島 新任教員サポートも課題がみられる。令和5年度離職者は6人で2.7%の増。精神疾患による病休は11人、こちらも増加。例えばいじめ事案のアンケート調査や聞き取り調査は児童生徒の安全に細心の配慮し緊張感を持つての事実確認、負担が多いとの声も。

教育長 教員プレゼミナールを開催し着任までの不安軽減をはかる他、若手教員支援室による面談や研修等、サポート体制を設けてきたが、残念ながら短期間での離職、病休取得する新任教員の数が増加傾向。新任教員の心に寄り添ったサポート体制の充実を図って参りたい。

教員 プレゼミナール



令和5年度教員プレゼミナールはこうです



教員プレゼミナールとは

● はじめて教員になつた方に対し、本県教育委員会が初任研修を希望する方への研修です。
● 着任までの不安を減らし、教員生活に安心して取り組むようサポートします。



APD聴覚情報処理障害、 LiD聞き取り困難症の認知向上

小田島 聞き返しや聞き間違いが多く聞く気がないと誤解される。行政窓口で認知が進んでいないことも課題。日本医療研究開発機構では学校での字幕表示や音声文字変換アプリ等の導入環境整備を推奨している。

健康福祉局長 各区役所や発達相談支援センターなどリーフレット加配し周知進める。

教育長 個々の状況に応じた対応を保護者とも調整。相談と支援体制の充実を図る。

公明党市議団 要望書提出 令和7年度仙台市予算及び 制度改正に係る要望書

最重点要望16項目、重点要望69項目を
まとめ郡市長に提出。

私からは、2023年度全国不登校児童生徒
数が前年より約5万人増加しており、学び
の場の確保と経済的財政的支援は待った
なしではないかと言及しました。



意見交換 せんだい子ども未来会議との意見交換



児童発達支援体制の強化と環境整備への要望書を市長
に提出し、意見交換を重ねてきました。発達障害支援
センター（アーチル）の母子保健システムと連動した
早期相談・早期支援や学校等の連携による相談待機期間
は最大4ヶ月待ち。引き続き改善を促してまいります。

参加 学びの多様化学校実践報告フォーラム2024 in仙台・ろりぽっぷ小学校

リヒテルズ直子さんのイェナプラン教育の講演は、
大変に学びが多い内容でした。

不登校の現状と法令指針と今後の政策の方向性
についての報告があり、全く追いついていない
状況に何とかせねばの思いが募ります。

